

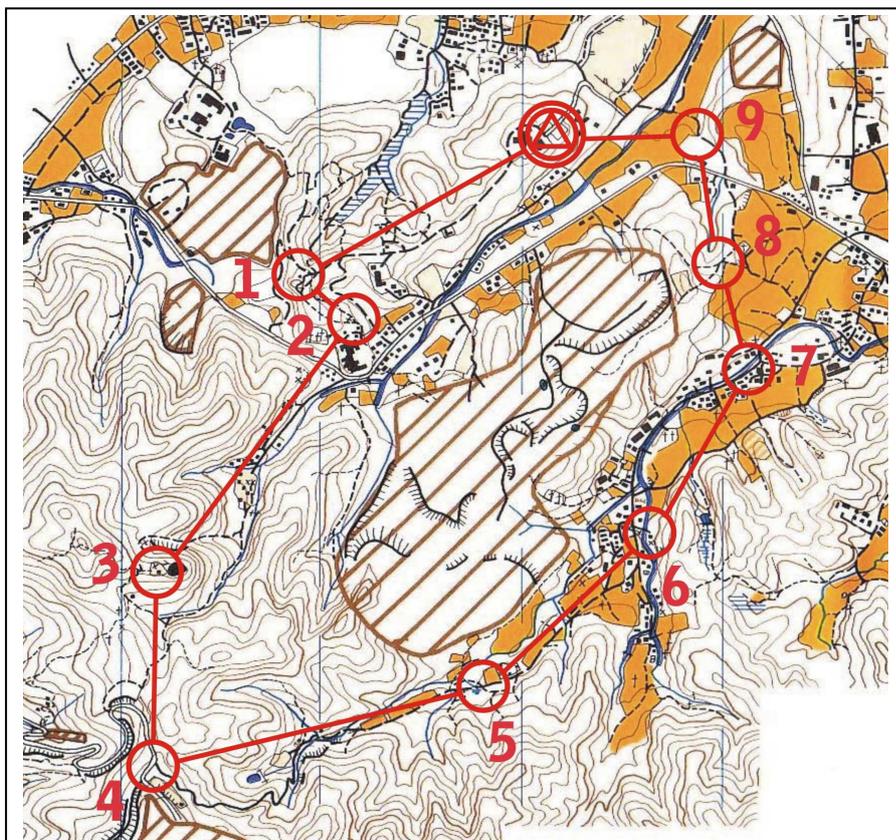
この連載では2度目となる埼玉県下のコースを紹介し
ます。

昭和45年に元加治、高麗、越生の3コースが誕生して以来、県協会と所属地域クラブの組織の力で、埼玉県ではパーマネントコースの維持管理を行っています。国土地理院の1:25,000地形図からO-MAPへの切り替え、低コストで製作できるポストの開発、印刷が劣化しない案内板プレートの導入、ネットプリントへの対応など、PCの運営の先導役を常に果たしているのも、発祥の地という気概があるからという話です。

今は亡き埼玉大学OLKに在籍していた当時、県協会担当として私もPC管理をお手伝いさせて頂きました。その際に地図調査に携わったのが神川コースで、PC地図としては唯一、調査者に名前を連ねています。調査が平成4年2月～5月ですから、もう20年前のことになりますね。後輩の細美誠司君と二人、高速道路も使わずに毎週のように現地を訪れ、不慣れた調査に勤しんだのが金鑽(かなさな)神社から鏡岩周辺。現在のBコースが設置されることになるその場所を「どんなコースができるのだろう」と思い描きながらの日々でした。

神川コースは昭和49年8月5日に245番目のコースとして公認され、7年半後の昭和57年2月9日にBコースがNo.623として追加されています。開設当初の地図には昭和48年1月1日に旅客営業を廃止した上武鉄道日丹線の青柳駅の記載が残されていました。Aコースとほぼ同一エリアを巡っていたこのBコース開設に伴ってO-MAPに改訂され、私が調査に携わった現在の地図への移管時に2コースの大幅変更がなされ、Bコースは西側の御嶽山周辺を巡るコースに生まれ変わりました。すでにAコースを昭和63年に、Bコースを平成3年に歩いていたこともあり、現在のコースを訪れないまま20年が経過してしまっていたのですが、げんきプラザ再生事業としてミニコースへの変更も噂されるようになり、背中を押されるように再訪することとしました。

自宅の逗子から湘南新宿ラインで大宮まで行き、ここからはレンタカーで



神川Bのコース

神川町へと向かいます。関越道の事故渋滞に巻き込まれながらもお昼前には現地に到着。平成15年からは「神川げんきプラザ」と改称された旧神川青年の家の事務所(写真1)を訪ね、会話のなかから逗子から来た旨告げると、応対してくれた事務員の方は私の家から歩いて10分ほどの聖和学院出身という奇遇。案内板のマスターが日焼けして読めないことを盛んに恐縮されており、事務所備え付けのマスターをコピーして手渡してくれました。ちなみに事務所には旧コースのマスターもNo.53、No.122として保管されていますが、誤ってこちらを写し取らないようお気をつけください。



(写真1)

今回の目的はBコース。一部地図には記載のない道がありますが、全般的に分かりやすい設定で、初心者でも安心してまわれるコースです。

12時5分にスタートし、げんきプラザの裏側に続く遊歩道を尾根ぐいに進みます。途中、公認コースには組み込まれていない古びたポストが設置されています。更に進むと上り坂の上に休憩所があり、これまた年季の入ったA/B共通の第1ポストが立っています。これは旧Bコースの第10ポストで、当時と同じポストが今も使用されています。

第2ポストまではこのコースでも最も短い区間です。尾根を下り、墓地を背にした小道との合流地点に設置されています。この下が金鑽大師大光普照寺(写真2)。開創は聖徳太子で、舒明天皇の勅願寺であったと伝えられる歴史ある古刹です。これから巡るコースの無事と、来年こそは安泰な年となるようお賽銭を投げ入れ、しきたりに則って合掌。第3ポストへ向かいます。



(写真 2)

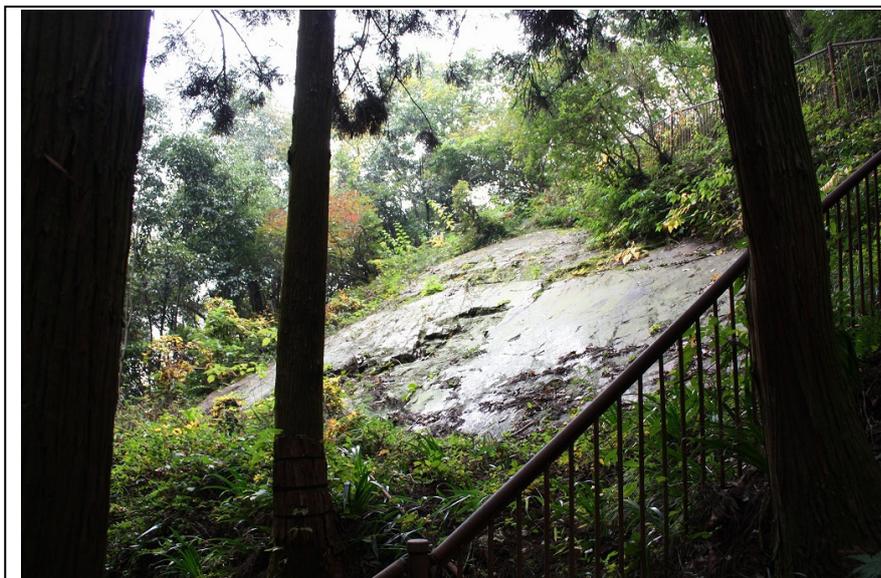
ここからが地図調査エリア。石造りの大鳥居をくぐり、何度も通った金鑽神社へと歩を進めます。国指定の重要文化財である多宝塔(写真3)を右手に仰ぎ見、社務所まで来ると七五三祝いの家族がきれいに着飾って詣でる姿が見られます。



(写真 3)

さらに拝殿、神楽殿の間を抜けるといよいよ本殿かと思いきや、この神社に本殿はありません。後方の御嶽山全体が御神体という解釈だそうです。旧官・国幣社の中でこのように本殿のない神社はこの他、長野の諏訪大社、奈良の大神神社のみという珍しい造りです。境内を抜けると日本武尊の石造のある分岐に差し掛かります。「鏡石(正しくは「岩」)」の道案内に従って右手に入ると階段が続く上り坂に。孫二人が下りてくるのを待っているというお婆さんと言葉を交わし、汗をかきかき上ると5分ほどで鏡岩に到着(写真4)。約9000万年前の岩断層活動の跡という岩面は今なお光を反射させて、鈍い輝きを保っています。

もうひと上りすると御嶽山頂に通じる尾根に到達。石仏群を眺めながら東側のテラスに進むと東屋に寄り添うように第3ポストが立っています。ポスト



(写真 4)

のさらに東側には、かつて弁慶が隠れたという弁慶穴や御嶽城の狼煙台だった岩山からの展望を楽しむことができるように整備されています。

尾根の南側に続く快適な遊歩道を下り、第4ポストを目指します。山道と舗装道路のアップダウンを繰り返すと、こだま神川カントリークラブの手前の分岐がポスト位置です。ここで調査エリアは終了。この先は未体験ゾーンに入ります。

第5ポストへ下る舗装道路は途中の崩落もあり廃道となっています。回避するために整備されたような新道があり、地図に記載がないために少々戸惑うことでしょうか。樹木の根の成長により波打つアスファルトも気にせず重力に任せて坂を下り、通行止めのゲートを逆から抜けると平地に到達。このあたりで神川町に別れを告げ、本庄市に入ります。休耕地の横を過ぎるとまもなく竹藪を背にした分岐でポストと対面します。

西に向かうと集落が開けてきます。水路沿いを北に向かうと右手に不動堂という小さな建物があり、第6ポストは植え込みに首まで埋もれるようにして立っています。

第7ポストは旧Aコースの第8ポストと同じ地点。水路に沿って舗装道路を歩いていくと、道端にあるポストは実に簡単に発見できます。昭和63年当時はまだ開設当初のポストが終盤の4箇所だけ更新されずに残されていて、ここもNの記号のポストが色あせながら晩年を過ごしていました。写真を比較すると、現在のポストも全く同じ位置に設置されていることが分かります。

第8ポストは旧Aコース、Bコースいずれも第9ポストだったところ。水路の対岸に渡り、分岐を左手に入ると小さな神社があります。ポストはこの境内ではなく、鳩舎の先にある分岐近

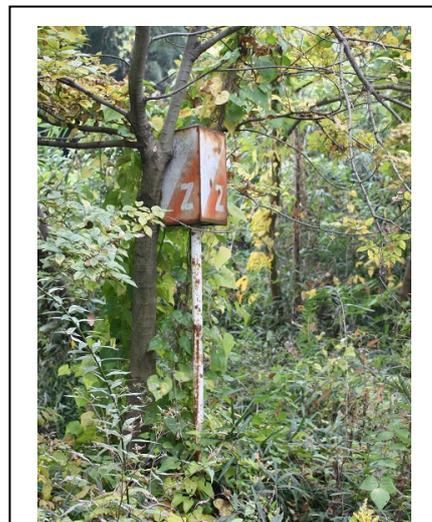
くの林の中で、細い樹木に寄り添うように佇んでいます。平成3年当時は更新されたばかりのピカピカだったポストの20年後の姿がそこにはありました。

北に向かい、車に気をつけながら国道462号線を渡り、再び神川町となる境に最終ポストがこれまた年季を身に纏いながらやや斜めに立っていました。直射日光や風雨に曝されながら20年の月日を耐え抜いた威厳すら感じさせるポストです(写真5)。

車で上ってきた道をたどり、つどいの広場にある案内板に帰り着いたのは、スタートから2時間8分後のことでした。

20代もまだ前半だった頃に調査した地図を使って、40代になった自分がこうしてそのコースを歩ける幸せを感じた1日となりました。

(2011年11月5日 踏破)
(大高竜亮)



(写真 5)